

2008年第3回 札幌小島志塾例会ご案内 2008年9月15日

各地を襲った猛暑やゲリラ豪雨という猛烈な豪雨は異常な気象変動の仕業かと思われたこの夏も過ぎようとしています。暑さ寒さも彼岸までというこの頃の北海道には、秋空や秋風の風情が漂って来ました。会員の皆様はお元気でお過ごしでしょうか。

敬愛してやまない小島慶三先生が8月30日大往生を遂げられたとの訃報が入り、在りし日の先生の面影を偲び、業績を読み直すと温かいお人柄や卓越したご見識を思い起こし、先生にご縁を頂いたことを感謝しております。同時に「その志を継ぐ」ということの重さと大切さを改めて感じています。

今年の札幌小島志塾の例会は、第1回は中川喬雄会員主催で、幌西会館で行い、第2回は山形健次郎会員主催で余市のやまけん農園で行いました。第3回は山本克郎が主催させて頂いて下記の通り企画しました。

今年の見終回は一年を締め括り、来る年を展望した望年会を12月6日(土)15時からエルプラザで開会して、その後恒例により懇親会を予定しています。

記

日 時 2008年11月3日(土)12時~14時

場 所 中央区南14条西1丁目 キタ ホテル 7階

テーマ 生きて生かされて80年—感謝です 問題提起 山本 克郎

1928年生まれ今年10月満80歳となりました。大恐慌、満州事変、支那事変、大東亜戦争、そして敗戦、廃墟の中から米軍の占領下での復興、講和後も冷戦下を日米安保・対米従属と高度経済成長路線でバブルの膨張を経過し崩壊へ。そして再び世界恐慌を迎えようとしています。この疾風怒濤の激動の時代を皇国史観の軍国主義から唯物史観へ。唯物史観から生命史観へと何が本当のことか。真実を求めて学生運動、生協運動、労働運動、市民運動、大学再建運動と遍歴し、真実とは、真理とは。ものの見方感じ方、考え方、そして生き方を求めてきましたが、お陰様で今「健やかに幸せに」生かされ、生きています。感謝!

人間とは何か。人間の本質は生命、動詞にすると「生きる」。それは「暮らす」ことであり、人間らしく生きるとは、健やかに暮らし、生き甲斐のある暮らしを幸せに終ることだと思えます。3年このかた食・動・息・想に心がけ、病院には縁がなく、小島志塾、kjknet等ボランティアに生き甲斐を見出して過しています。

しかし、現在の流れで進行すれば21世紀の北海道・日本も世界も憂慮される事態が予測されます。「この現実をどう変革するか」が気懸かりでこの問題を提起したいと存じます。その後、お出会いから傘寿までのご厚情に感謝し、当日粗餐を用意させていただきますので、お時間の許す限りご歓談のほどをお願い申し上げます。

以上